

東海

だより

第19号

東海防衛支局広報

平成26年4月発行

〒460-0001

名古屋市中区三の丸二丁目2番1号

電話：052-952-8212

<http://www.mod.go.jp/rdb/tokai/>



松阪港に集結した掃海艦艇

第19号の掲載内容

- ◆特集 伊勢湾掃海訓練について ……2、3、4、5ページ
- ◆支局短信1 市道穂ノ原六角線(豊川市) 完成 ……5ページ
- ◆支局短信2 平成25年度防衛問題セミナー開催 ……6ページ

特集：平成25年度 伊勢湾掃海訓練について

平成26年2月1日から2月8日にわたり、海上自衛隊による掃海訓練が伊勢湾において行われました。

訓練実施にあたり、東海防衛支局は、施設管理課を中心として、関係漁業者、関係地方公共団体等と調整を行って参りました。

今号では、海上自衛隊掃海隊群の協力を得て、掃海訓練の意義などを改めて紹介いたします。地域住民の皆様の理解の一助になれば幸いです。

1 掃海訓練の意義について

四周を海に囲まれた資源の少ない日本にとって、資源や食料の輸入は、海上輸送に大部分を頼っています。その海上輸送がストップすれば、日本経済や国民の生活に甚大な影響を及ぼします。

日本の港湾や海峡に機雷（海に設置された爆弾のようなもの）が敷設されたら、機雷を除去するまで船舶は敷設された海域を通航することができません。

海上自衛隊の掃海部隊は、もし、我が国周辺海域に機雷が敷設された場合、これらの機雷を除去することで、海上輸送の安全を確保し、日本経済や国民生活を守ります。

そのために、定期的に訓練海面を設定し、機雷除去の訓練を実施する必要があります。

2 戦後掃海の歴史

～米国製沈底機雷の処分～

太平洋戦争が終わった昭和20年当時、日本の沿岸海域には米国が敷設した約11,000個の機雷と日本海軍が防御用として敷設した約55,000個の機雷が残存していました。これらの機雷による船舶の沈没や損傷は、昭和27年までに166隻、約20万トンにも上る甚だしいもので、これらの機雷を除去し、海上交通の安全を確保することが、我が国復興上の急務とされました。

機雷の危険を排除するための掃海作業は、連合国管理の下に、終戦直後、海軍省軍務局に設置された掃海部がこれを開始しました。その後、第2復員省、運輸省、海上保安庁へと移管され、航路啓開業務として継続されました。

昭和29年に防衛庁が発足してからは、海上自衛隊がこの航路啓開業務を引き継ぎました。航路啓開業務は昭和60年で終了しましたが、港湾の浚渫作業時には未だに当時の機雷が発見されており、海上自衛隊は今もその除去（処理）作業に従事しております。

関門海峡での現場爆破処分



神戸港での現場爆破処分



3 訓練海面について

訓練海面を選定するにあたっては、海底の起伏が小さく、訓練に適した水深を確保でき、気象、海象の状況が比較的穏やかであるなどの条件を満たすことが必要です。今回の伊勢湾における訓練海面は、これらの条件をすべて満たした訓練に最適の海面です。

また、訓練海面近くに掃海艦艇が入港できる港があると、食料や水の補給等が容易に実施できます。これも効果的に訓練を実施できる条件の一つです。



松阪港入港



掃海母艦



伊勢湾における訓練海面



訓練海面内で掃海訓練実施中の掃海艦艇

豆知識: 訓練中の乗組員の生活について

機雷が存在する海域に入っでの掃海実施中は、いつ機雷に触雷して沈没するかわからないので、乗組員はヘルメットと救命胴衣をしっかりと着用します。長時間の作戦では、乗組員が交代して作戦を実施します。非番の乗組員は、触雷した衝撃で天井に叩きつけられて負傷、死亡しないようにヘルメットと救命胴衣は着けたまま、露天甲板で食事や休憩をします。たとえ冬に降雪、降雨があっても、夏の炎天下でも掃海艇内には入らず非番の乗組員は露天甲板で待機するのです。

4 掃海訓練の概要について

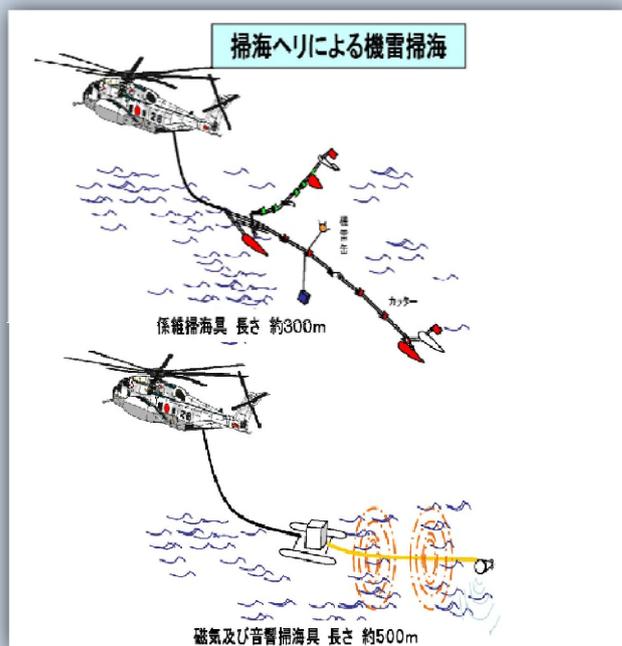
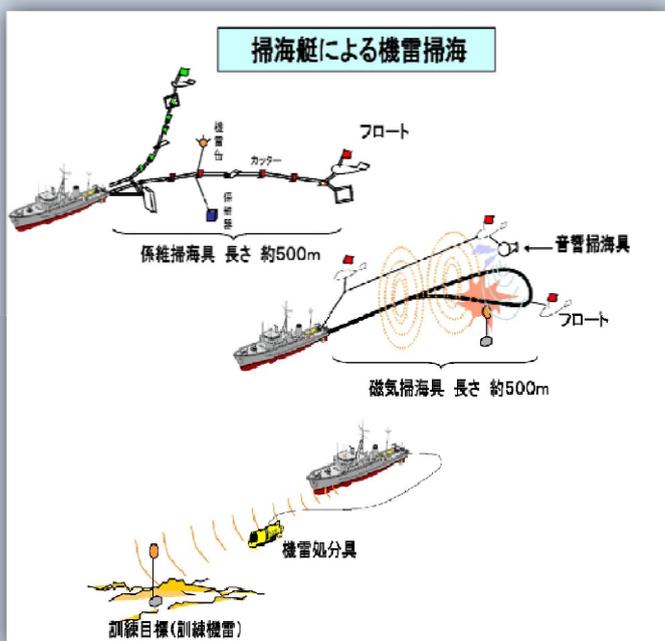
掃海訓練は、訓練海面に訓練機雷（爆薬は入っていない。）を設置し、設置した訓練機雷を掃海艦艇から展開したワイヤーにカッターを取り付けて訓練機雷のワイヤーを切って処分します。

また、音や磁気に対応する訓練機雷には、掃海艦艇の後部から曳航したケーブルや発音体に磁気や音を発生させて処分する訓練も実施します。

さらに、訓練機雷を機雷探知機で一つ一つ見つけて機雷処分具によって処分する訓練やヘリコプターを使用した訓練も実施します。



掃海訓練の様子



機雷処分具を投入する掃海艇

5 訓練海面の設定について

- ① 掃海訓練の海面・規模については、地先漁業者との調整及び伊勢湾での船舶航路との関係から設定するとともに、時期についても、冬場の比較的漁業への影響が少ない2月上旬に計画したところです。
- ② 今回、海上自衛隊が伊勢湾において、掃海訓練を実施するにあたり、関係漁業者から掃海訓練海面における漁業の操業制限について、同意をいただいたところです。

また、当支局としては、関係漁業者、関係地方公共団体等のご理解を深めていただくべく、掃海艦艇の見学会を行い、海上自衛官から掃海訓練の具体的な内容や活動状況を説明したところです。



見学会の風景

支局短信 1

豊川市の「市道穂ノ原六角線」が完成



着手前



完成

豊川駐屯地の西側に隣接する豊川市の「市道穂ノ原六角線」が、平成25年10月に完成しました。本路線は市内の中心部に位置し、商業施設、市役所、公園等へのアクセス道路として、多くの自動車、自転車、歩行者に利用されています。しかしながら、当初は歩道がなく安全に通行できる状況ではありませんでしたので、今回、道路を拡幅し歩道設置を行うことで、利用者の生活環境の向上が図られました。当支局は防衛施設周辺的生活環境の整備等に関する法律第8条に基づき、自衛隊車両とのすれ違いへの支障がある道路として、本路線の費用を補助させていただきました。今後も防衛施設周辺にお住まいの皆様方の生活環境の改善のための各種施策の実施に取り組んで参ります。

平成25年度防衛問題セミナー開催



佐藤隆章
東海防衛支局長の挨拶



門間理良 主任研究官
(防衛研究所地域研究部
北東アジア研究室)



出口佳努 海将補
(海上幕僚監部総務部副部長)



3月5日(水)、東海防衛支局は、愛知県名古屋市の中区役所ホールにおいて、平成25年度防衛問題セミナーを開催しました。

冒頭、佐藤隆章東海防衛支局長の挨拶の後、プログラムに従い講演が行われました。

第1部では、防衛研究所地域研究部北東アジア研究室 門間理良主任研究官を講師として、「日本の安全保障環境—中国情勢を中心に」をテーマに、向上する中国の軍事力、転機を迎える日中安全保障関係などについて、講演をいただきました。

第2部では、海上幕僚監部総務部副部長 出口佳努海将補を講師として、「海上自衛隊の活動状況と将来体制等」をテーマに、海上自衛隊の組織・編成、海上防衛力の意義、海上自衛隊の活動状況と将来体制などについて、講演をいただきました。

来場者は、メモを取るなど熱心に聴講し、終了後には、大変有意義で参考になった旨の感想が多数寄せられました。



受付の様子



パネル展示

会場ロビーでは、海上自衛隊の活動状況などを紹介する写真を展示し、多くの来場者が熱心に見入っていました。

編集後記

3月5日に開催した防衛問題セミナーに足をお運び頂きありがとうございました。今号が届く頃は、桜が開花する季節となっているのでありましょう。今冬を振り返り、名古屋の冬は、想像より寒いと感じています。寒さゆえに、冬晴れの日には、支局が入居する合同庁舎から、北西には伊吹山を、北東には御嶽山、恵那山を遠くに望むことができました。雪をいただく山々は、吸い込まれる程の美しさでした。(TK)